

「寝^ねまつり祭」の由来－久丸神社

久丸神社では毎年珍しい変わった祭事を行っておりまして、旧正月の最初の巳の日から数えて申・酉の日に行うもので、令和3年は2月17日～19日に行います。それは、「寝祭」といって、見てはならない祭事なのです。この日の町の人々は夕方まで門を覆い、戸を閉め、火も炊かず、あたかも寝ているように過ごすため、「寝祭」と呼ばれています。昔からこの祭事を見た者は、盲目になったり、熱病にかかったり、狂気になって死んでしまった人が大勢いたと云われており、現在でも寝祭りの祭事の時期を高札にして人々に知らせ、注意喚起をしているのです。この祭事のいわれは、南北朝時代の後醍醐天皇の孫あるいはひ孫（定かではない）の久丸王子が、北朝方の武士に追われ、この地に流れてきたのですが、王子はライ病に侵されていたため、自らを恥じて常に人影を遠ざけ、あえて人に見えないところに住まれ、その後、崩御されたため、旧正月の申酉の両日寝祭りの神事を執り行うこととしたものです。

但し、当日この祭事を見てしまった人は、3日目の戌の日（2月19日）に謝罪祭があり、そこで御祈祷をして頂ければ、その後、無病息災で過ごすことができる云われております。

国府宮の裸祭りや豊橋の鬼祭りなど、多くの祭りは派手な祭事ですが、久丸神社の祭事は、静かな奇祭です。そんな祭事もあるんだと知っていただければ有難いです。ぜひ見に来ないで下さい。